



関西医科大学附属病院

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

病院案内 2024



## 沿革

2006 (平成 18) 年 1 月	関西医科大学附属枚方病院開院 特定機能病院に指定	2018 (平成 30) 年 4 月	日本医療機能評価機構認定病院に認定 がんゲノム医療連携病院に指定
2006 (平成 18) 年 3 月	総合周産期母子医療センターに指定	2018 (平成 30) 年 6 月	大阪府アレルギー疾患医療拠点病院に指定
2006 (平成 18) 年 10 月	大阪府災害拠点病院に指定	2018 (平成 30) 年 11 月	大阪府難病診療連携拠点病院に指定
2008 (平成 20) 年 2 月	三次救急告示医療機関に指定	2019 (令和 元) 年 5 月	大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関に認定
2009 (平成 21) 年 4 月	大阪府がん診療拠点病院に指定	2019 (令和 元) 年 6 月	地域医療連携推進法人北河内メディカルネットワーク設立
2010 (平成 22) 年 4 月	地域がん診療連携拠点病院に指定	2020 (令和 2) 年 4 月	看護師特定行為研修指定機関に指定
2012 (平成 24) 年 5 月	高度救命救急センターに指定	2022 (令和 4) 年 6 月	関医タワーホテル開業
2013 (平成 25) 年 4 月	病院隣地に関西医科大学枚方学舎が開設		
2013 (平成 25) 年 6 月	大阪府エイズ治療拠点病院に指定		
2013 (平成 25) 年 8 月	臨床検査部 ISO15189 認定		
2016 (平成 28) 年 4 月	病院名を「関西医科大学附属病院」に変更		



## INDEX

ページ	項目
1	沿革
3	病院長挨拶
5	附属医療機関・施設
6	附属病院の機能
7	最近のデータで見る附属病院
9	診断と治療の推進
11	がん治療
13	低侵襲治療と機能温存
15	ロボット支援手術
16	内視鏡診療
17	救急医療
18	糖尿病診療
19	認知症診療
20	脳ドック
21	周産期・小児医療
22	介護・福祉部門
23	あたたかい看護
25	快適な療養環境
26	関医タワーホテル
27	医療人を育成
28	地域医療連携
29	診療部科長・診療内容のご紹介
42	附属病院概要
43	フロア構成
44	院内アメニティ
45	フロアマップ
47	アクセス

## 病院理念

慈仁(めぐみ)を心の鏡とした、安全であたたかい医療を提供します。

## 基本方針

1. 患者の意思を尊重し、個々の患者に最適な医療を行います。
2. 感染対策に注力し、安全な医療に最善を尽くします。
3. 医療人の責任と自覚を持って、チーム医療を行います。
4. 地域の医療機関との連携を深め、地域社会に貢献します。
5. 先進的な医学研究にとりくみ、最新の医療を提供します。
6. 医育機関として人間性ゆたかな優れた医療人を育成します。

## 患者さんの権利

1. 人としての尊厳が守られ、思いやりのあるあたたかい医療を受ける権利を有します。
2. プライバシーが尊重される権利を有します。
3. 安全に配慮した医療を受ける権利を有します。
4. 医師・医療者から十分な説明を受け、自己の選択に基づく医療を受ける権利を有します。
5. 医療に関する疑問点を尋ねたり相談する権利を有します。
6. 診療録の閲覧や、他の医療機関の医師の意見を聞く権利を有します。
7. 快適な環境で医療を受ける権利を有します。
8. 医療費と医療の公的援助に関する情報を受ける権利を有します。

## こども憲章

当院はこども憲章についてWEB サイト等で啓発し、これを守ります。





関西医科大学附属病院  
病院長 松田 公志

## 慈しみ、めぐみ、愛の心で、安全で安心、最適な医療を行います

### 北河内二次医療圏の基幹病院として

当院は、京阪電車枚方市駅から徒歩約3分で、背後の淀川河川公園の水辺環境を生かした緑豊かな地に、2006年1月に新築開院しました。

開院時から特定機能病院としてスタートし、その後、総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、大阪府アレルギー疾患医療拠点病院、大阪府難病診療連携拠点病院など、医療圏内唯一の指定を受けています。さらに、高度救命救急センターを擁し三次救急医療体制を敷くとともに、大阪府災害拠点病院でもあり、救急および災害医療にも万全の体制を整えています。

2018年4月には日本医療機能評価機構の認定を受け、北河内二次医療圏の基幹病院として、115万人市民の医療の最後の砦としての役割を果たしています。

また、介護福祉部門としてデイケアセンター、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を持ち、急性期から慢性期までシームレスな医療を提供しています。

### 当院の目標

関西医科大学の建学の精神である「慈仁心鏡」すなわち慈しみ・めぐみ・愛を全職員が心の規範とし、安全であたたかい、患者さんに寄り添った最善の医療の提供が当院の目標です。

加えて、大学病院として新しい診断法や治療法の開発、そして、医師、看護師などより良い医療人の教育と育成も重要な使命です。

### 診療機能の最適化と強化

一人一人の患者さんに最適の診療を行うために、49の高度に専門化された診療科とともに、複数の診療科が連携して診療を行うセンター化を進めており、小児医療センター、ハートセンター、脳卒中センター、腎センター、痛みセンターなどに加えて、2024年4月に糖尿病センターと認知症予防センターを設置しました。

開院以来、患者数は継続的に増加し、2023年には年間病床利用率100%となったことから、入院病床を46床増やして797床とし、「ことわらない病院」の実現を図ります。

## 2024年 病院機能を大幅に強化

### 病床数増床

751床 ▶ 797床  
(46床増床)

病床数増床により  
真にお断りしない病院の実現へ

### 手術実施体制

- 手術室3室増室
- 外科6講座体制

手術室の増室により  
お待たせすることなく手術を実施

### 低侵襲治療

- 手術支援ロボット3台体制
- 脊椎手術支援ロボットに加えて  
膝関節手術支援ロボットを導入

高い技術を持った術者による先進的な  
機器を用いた精緻で低侵襲な手術

また、2024年8月には手術室を3室増やして計22室（1室はハイブリッド手術室）とするとともに、ダビンチなどの手術支援ロボットを3台体制とし、さらに整形外科には脊椎手術ロボットに加えて膝関節ロボットも導入するなど、より精緻な手術を安全に、数多く行える体制を整えました。

加えて、AI診療機器や患者情報自動カルテ入力システムの導入など、スマート病院構想を進めています。

### 新しい治療法の開発

大学病院として、多くの新薬治験を行うとともに、新たな診療機器を用いてよりよい新規医療の開発を行っています。

第5のがん治療として注目されている光免疫療法についてもセンターを設置し、大学の光免疫医学研究所と連携して開発を推進していきます。

2024年後半には新薬開発科を立ち上げ、がん新薬を世界で初めて当院で使用できる体制を整える予定です。

### より良い医療人の育成

大学附属の医育機関として、当院は、本学医学部、看護学部、リハビリテーション学部などの卒前学生教育とともに、医師、看護師などの卒業教育にも全力で取り組んでいます。

看護師の特定行為研修指定機関でもあり、多数の特定看護師の育成を行い、医師、薬剤師とともに共通の規範のもとに、これまで以上に高いレベルでの患者さん中心のチーム医療を推進します。

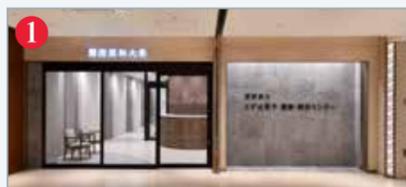
### 地域医療機関との連携

当院は、北河内二次医療圏の基幹病院として多くの医療機関と連携するとともに、地域医療連携推進法人「北河内メディカルネットワーク」の中心病院として、地域包括医療システムの構築に寄与しています。

### 附属病院の将来計画

2027年には本館の後方に別館が完成する予定です。さらにその後には本館改修を行い、診療機能の強化と療養環境の整備を図り、スマート病院として生まれ変わります。今後も、教職員の働き方改革に適切に対応しながら、新たな医療を安心・安全に提供し、大学病院本院としての社会的責務を果たしてまいります。

# 関西医科大学の附属医療機関・施設



1 くずは駅中健康・健診センター  
KMU Kuzuha Health Promotion and Physical Examination Center



2 くずは病院 KMU Kuzuha Hospital



3 附属病院 KMU Hospital



4 関医アネックス1 KMU Annex1  
訪問看護ステーション・ケアプランセンター



5 関医タワー KMU Tower  
関医タワーホテル KMU Tower Hotel



7 総合医療センター KMU Medical Center



8 天満橋総合クリニック  
KMU Temmabashi General Clinic

## 関西医科大学の「健康沿線®」

関西医科大学は、枚方市駅に近接する大学学舎、附属病院をはじめ、京阪電車沿線に4つの病院と1つのクリニック、健康・健診センターそして牧野キャンパスを設置しています。このネットワークを健康沿線®と称し、地域住民の医療・福祉に寄与しています。

<p>診療部</p> <p>49 診療科</p>	<p>集学的治療・診断部</p> <p>9 部門</p>	<p>中央診療施設部</p> <p>20 部門</p>	<p>病院長直轄部門</p> <p>9 部門</p>
<p>看護・管理部</p> <p>8 部門</p>	<p>診療支援部</p> <p>3 部門</p>	<p>介護福祉部</p> <p>3 部門</p>	

## 附属病院の機能

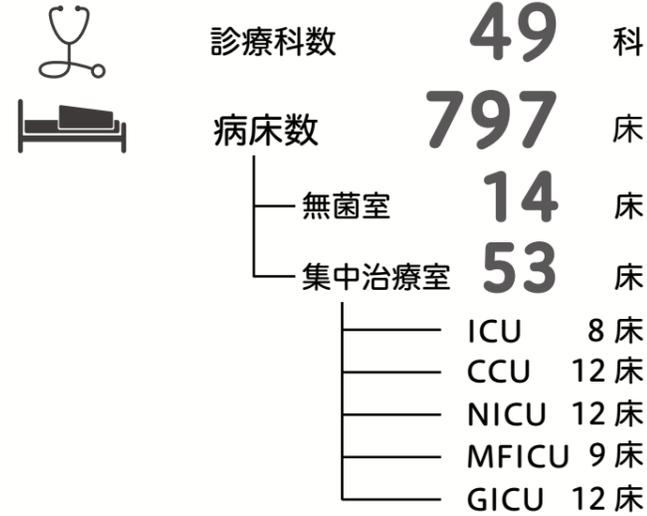
学校法人関西医科大学の6つの附属医療機関の本院として、多様な機能をそろえています。地域の医療機関と定期的なカンファレンスなどを通じて密接につながっており、地域全体で医療を提供する体制づくりを推進しています。また大学キャンパス内に位置し、病院内に卒後臨床研修センターを設置、他大学などからの実習生も積極的に受け入れるなど、教育機関としての役割も果たしています。

医療機関としての主要な指定			
特定機能病院			
地域がん診療 連携拠点病院	高度救命 救急センター	総合周産期母子 医療センター	災害拠点病院
がんゲノム医療 連携病院	大阪府アレルギー 疾患医療拠点病院	大阪府難病診療 連携拠点病院	基幹型臨床研修病院



# 最近の データでみる 附属病院

2024 年度各種データ



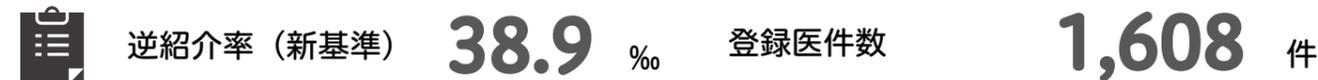
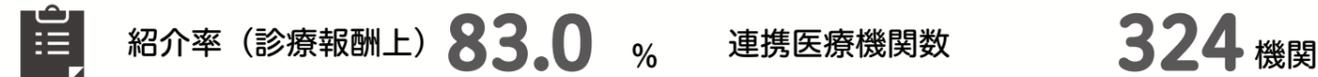
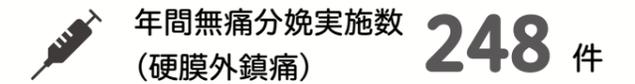
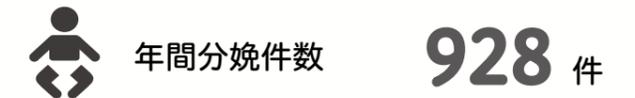
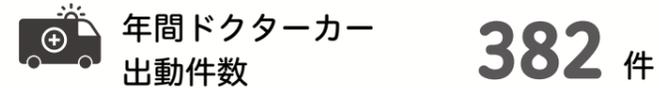
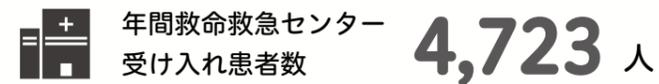
入院手術：11,593 件 外来手術：921 件

麻酔科管理手術：7,581 件

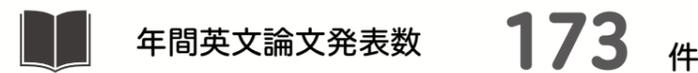
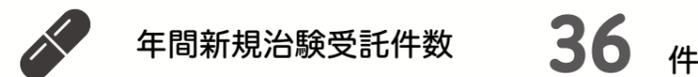
## 当院で実施可能な先進医療

- S-1 内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法
- 切除可能幹細胞がんに対する陽子線治療と外科的切除 (当院は外科的切除を担当)
- 術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん
- 遺伝子組換え活性化型血液凝固第VII因子製剤静脈内投与療法
- 子宮内膜受容能検査 1
- 子宮内細菌叢検査 1
- 子宮内細菌叢検査 2
- ウイルスに起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断 (PCR法)
- 細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断 (PCR法)
- 二段階胚移植術

附属病院に関するさまざまな数字をご紹介します。  
特定機能病院である附属病院は先進医療を行うことが認められており、診療だけでなく、新しい技術の開発や研究の推進なども行われています。



※職員数：2024 年 4 月 1 日現在





## 多診療科が協力して行う診断と治療の推進

診療科や職種、分野・領域の垣根を越えて患者さん一人ひとりの疾患に合わせた最適な医療を提供すべく、センター化を進めています。各センターでは医師・看護師・コメディカルが連携し、チーム医療を行っています。

### 中央診療施設部 Central Clinical Facilities Departments

#### がんセンター Cancer Treatment Center

がん治療の推進とともに、治療成績の向上を目的とした組織で、外来には37床の治療ベッドがあります。

#### 光免疫療法センター Photoimmunotherapy Center

“第5のがん治療法”として注目を集める全く新しいがん治療戦略“光免疫療法”を実施するための部門です。

#### 【がんゲノム医療部門】 【Cancer Genome Medical Division】

臨床検査医学センターや臨床遺伝センターと相互に連携しながらがん遺伝子パネル検査を実施しています。

#### 総合周産期母子医療センター General Perinatal Care Center

大阪府内6つの総合周産期母子医療センターのひとつとして、北河内地区における周産期医療の拠点となっています。

#### 緩和ケアセンター Palliative Care Center

院内全体の緩和ケアに関する診療活動と、緩和ケアを通して地域医療機関との連携を推進する役割を担っています。

#### 生殖医療センター Reproductive Medical Center

一般不妊治療から高度生殖補助医療まで、女性診療科と泌尿器外科の医師や胚培養士、専門看護師がサポートします。

#### 術中脳・脊髄・神経モニタリングセンター Intraoperative Brain, Spinal Cord, Nerve Monitoring Center

各種外科手術の際の神経損傷の発生をできる限り低減させるために脳・脊髄・神経の術中モニタリングを施行します。

#### 高度救命救急センター Advanced Emergency and Critical Care Center

365日24時間体制を整え、災害時には災害拠点、広域搬送拠点としての役割も果たしています。

#### 臨床遺伝センター Clinical Genetics Center

遺伝学的検査を行う患者さんの、検査のメリットやデメリット、活用法などの相談に認定遺伝カウンセラーが応じています。

#### ロボット手術推進センター Robotic Surgery Promotion Center

各科のロボット支援手術が安全に、スムーズに導入・維持されるのを推進・支援していく部門です。

#### 総合リハビリテーションセンター Comprehensive Rehabilitation Center

早期離床を目指し、多職種が連携してリハビリテーション治療を提供。他では珍しい三次元動作解析も実施しています。

#### 内視鏡センター Endoscopy Center

上・下部消化管疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患および呼吸器疾患に対して内視鏡を用いた診療を行っています。

#### 歯科・口腔外科・口腔ケアセンター Dentistry and Oral Surgery / Care Center

専門的な周術期口腔機能管理を積極的に行うとともに、口腔外科疾患の診療や手術にも力を入れています。

#### 健康科学センター Health Sciences Center

心臓リハビリ、禁煙・肥満外来などの治療や予防、トレーニング管理、スポーツ医学の臨床応用研究を行っています。

#### 臨床検査医学センター Clinical Laboratory Medicine Center

診断のために欠かすことのできない要素である臨床検査を正確に、迅速に、安全に実施し、先進医療を支えています。

### 集学的治療・診断部 Intensive Care and Diagnostic Department

#### ハートセンター Heart Center

12床の冠動脈疾患集中治療室を設置。心筋梗塞や不整脈、心不全の治療にも迅速に対応します。

#### 小児医療センター Pediatric Medical Center

小児医療のスペシャリストがチームで15歳未満の子どもを診療。保育士がいるプレイコーナーや、院内学級も設置しています。

#### 難病センター Intractable Diseases Center

病院内外の各領域の医師と連携し、早期診断と適切な治療により、生活の質を向上できる体制作りを努めています。

#### 痛みセンター Pain Center

難治性の慢性の痛みに対して、多職種によるチームで連携し、心身の両面からのアプローチで対応します。

#### 脳卒中センター Stroke Center

脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）や一過性脳虚血発作などに24時間体制で対応します。

#### アレルギーセンター Allergy Center

各領域のアレルギー専門医が集まり、診療科や組織の垣根を越えて幅広く連携し、診療と啓蒙に取り組みます。

#### 【潰瘍性大腸炎・クローン病部門】 【Ulcerative Colitis / Crohn's Disease Division】

症状を改善させるだけでなく、専門医により患者さんの生活の質を向上させるための診療を提供します。

#### 認知症予防センター Dementia Prevention Center

詳細な認知機能検査や最新の画像診断を用いた確かな診断と治療を行い、認知症診療に取り組み、健やかな生活の継続を支援しています。

#### 糖尿病センター Diabetes Center

個々の患者さんに適した血糖管理や、多分野の専門医と連携した合併症の早期発見・治療、肥満糖尿病の新治療開発などを行っています。

#### 腎センター Kidney Center

全ての腎疾患に対処。移植患者会を開催するなど、腎移植にも注力しています。

# がん治療

知識と技術を駆使し  
個々の患者さんに  
最適な医療の提供へ

現在、日本人の2人に1人が罹患するとされている、がんに対する治療およびケアは、日本の医療における重点課題です。がん対策基本法の中での全体目標は、がんによる死亡率の低下、患者さんとご家族の苦痛の軽減、QOLの向上、安心して暮らせる社会の構築となっています。

その目標を達成するために、当院では化学療法と緩和ケアを早期に同じ場所で行える環境の整備、がん薬物療法専門医・がん化学療法認定看護師をはじめとするスペシャリストの育成、新規治療への取り組み、診療科・職種を超えたチーム医療の実施など、がん治療に力を注いでいます。個々の患者さんに最適な医療を提供することで患者さんおよびご家族が安心して治療を受けることができる病院を目指しています。

化学療法部門とがんゲノム医療部門を持つがんセンターでは、多くの診療科を有する大学病院の特性を活かし、多様化するがん治療の副作用対策も可能で、新薬を扱う治験も積極的に導入しています。また、効果が確認されているがん診療を基盤としてさらなる治療選択肢を提示できるように、国立がん研究センターや、国内外の臨床研究グループと連携し、多数の臨床試験にも参加しています。

さらに、第5のがん治療として注目されている光免疫療法をいち早く取り入れ、大学の附属光免疫医学研究所と連携して新規治療の開発にも取り組んでいます。



化学療法

37床を有するがんセンターでは年間21,025件の化学療法を実施しています。



ゲノム医療

がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム医療中核拠点病院と連携し診断、治療を行っています。



外科療法

切除可能ながんに対しては手術の可能性を追求し、外科手術による根治を目指しています。



放射線治療

放射線治療部門では、特にIMRT、体幹部定位放射線治療などの高精度放射線治療を積極的に行っています。



がんセンター  
がんボード

各がんに対し関連診療科ががんセンター（がん診療連携カンファレンス）を実施し治療方針などを検討・共有しています。



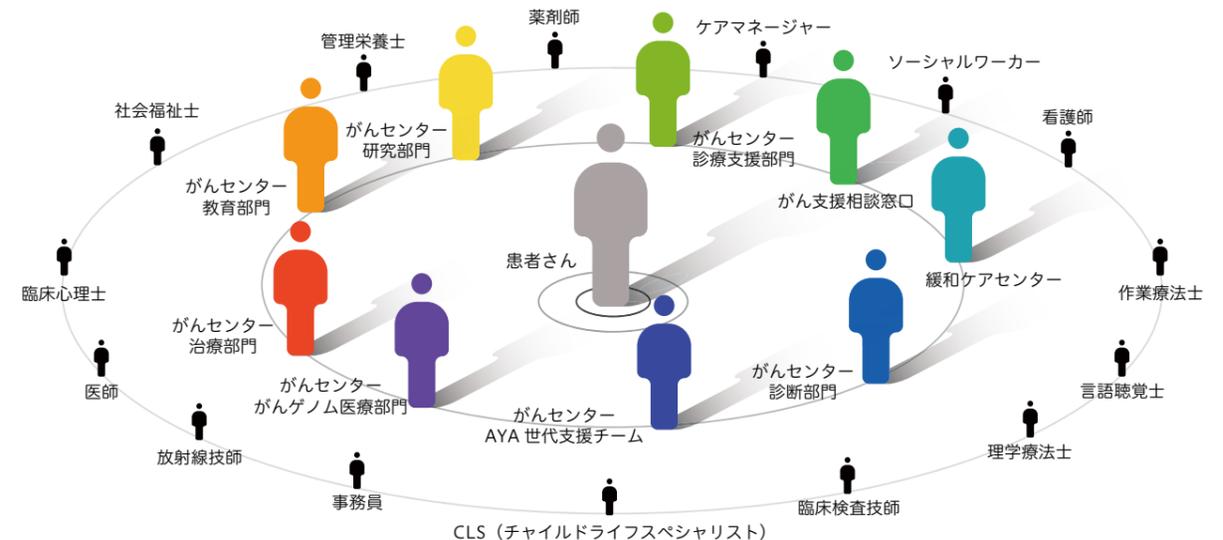
光免疫療法

光免疫療法センター専門外来にて光免疫療法の適応判断や治療の施行、予後の管理などを行っています。



がんリハビリ

食欲低下、体重減少、筋力低下をきたしやすく、悪液質の状態に陥りやすいがん患者さんに対してがんリハビリを実施しています。



医師、薬剤師・看護師・臨床心理士など各専門分野のスタッフがー丸となり、がん診療に携わることで患者さんやご家族を支援します

# 低侵襲治療と機能温存

## 治療後の早期社会復帰を

近年の医療の進歩により、従来では開腹手術が必要であった疾患に対しても、内視鏡手術などの体に負担が少ない治療が登場しました。低侵襲治療と呼ばれる治療方法で、出血や感染のリスクが少なく、傷も小さいため入院期間の短縮につながり、治療後の早期社会復帰が可能です。従来の手術に耐えうる体力がない方、合併症をお持ちの方、高齢者、お子さんでも治療が可能になる場合があります。当院では高精細・高機能な先端医療機器を導入することで血管や神経の損傷を回避し、治療後の各臓器の機能温存にも努めています。また、**術中脳・脊髄・神経モニタリングセンター**が中心となって手術中の神経モニタリングを推進しており、患者さんの術後神経機能保持に努めています。ただ治療を行うだけでなく、治療後の生活の質:QOL (Quality of Life) を重要視し、低侵襲治療と機能温存を心がけて治療にあたっています。



### 内視鏡手術

非常に小さな傷で手術を行うため、術後の痛みの軽減、早期回復につながります。また、外見上の傷痕も小さくすみます。



### 8K 内視鏡

新生児から小児にも高精細な 8K 内視鏡を用いることで負担を抑え術後の傷が目立ちにくくなるよう工夫しています。



### 術後鎮痛管理

術中、術後の鎮痛をもたらす麻酔。良好な術後鎮痛は早期回復につながります。



### IVR Interventional Radiology インターベンショナル・ラジオロジー

切開をせず、カテーテルや針を用いてレントゲン画像のガイド下に検査・治療を行います。

## 循環器疾患に対する低侵襲治療

循環器疾患においては心臓血管外科と循環器内科をはじめ、関係する全ての診療科が一体となり、ハートセンターとして治療にあたっています。僧帽弁閉鎖不全症に対するミトラクリップ、胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト留置術、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術 (TAVI) などのカテーテル治療や、MICS と呼ばれる切開を伴わない内視鏡手術など、低侵襲治療に力を入れています。

手術部にはハイブリッド手術室が設置されており、従来部屋の移動が必要であった「手術」と「検査・撮影」が1つの部屋で完結。ステントグラフト手術や TAVI など、開胸手術が困難な患者さんにも低侵襲で外科的治療ができます。透視・撮影システムを搭載した自在に可変するアームにより撮影された画像はリアルタイムで反映され、精緻な手術を可能にするるとともに手術時間の短縮につながります。



### MICS Minimally Invasive Cardiac Surgery 低侵襲心臓手術

切開を行わず、左胸の出来るだけ小さな傷から内視鏡を用いて手術を行います。出血が少なく感染リスクが低下します。



### ステントグラフト治療

切開することなく行われる治療のため、翌日からの歩行や食事、5～7日で日常生活が可能です。質の高い低侵襲治療を提供しています。



### TAVI Transcatheter Aortic Valve Implantation 経カテーテル的大動脈弁置換術

体への負担が少ない TAVI によって高齢や併存疾患のために手術が困難だった患者さんにも、治療が可能となります。



### ミトラクリップ

カテーテルを用いることで胸を大きく切開することなく、人工心臓を使わないことから、身体への負担が少ない治療法です。



# ロボット支援手術

手術支援ロボット 3 台体制で、より精緻で安全な手術を提供

当院では、2013年腹腔鏡手術支援ロボットとしてダビンチ Si を導入以来、11年間に、1,600例を超えるロボット手術を行ってきました。この間、様々な術式が保険収載され、ロボット手術を実施する機会が増えてきました。そこで、当院では2023年12月に新規ロボットとしてダビンチ Xi を導入、さらに2024年3月には国産ロボット hinotori も導入し、ロボット3台体制で手術を行っています。腎泌尿器外科をはじめとして、上部消化管外科、下部消化管外科、肝臓外科が多くの手術を行える環境になりました。当院では、上記の腹部や胸部の手術だけではなく、整形外科の膝、脊椎の手術用ロボットもそれぞれ導入しています。ロボット手術では、悪性疾患、良性疾患にかかわらず精緻な動きによる安全で質の高い手術が可能となり、今後ますます外科手術の主流になっていくと考えられます。

附属病院で実施しているロボット手術

## 【腎泌尿器外科】

- 腎部分切除術
- 腎盂形成術
- 仙骨腫固定術
- 膀胱全摘出手術
- 腎（腎盂尿管）摘出術

## 【肝臓外科】

- 肝腫瘍切除術

## 【呼吸器外科】

- 肺悪性腫瘍切除術

## 【上部消化管外科】

- 食道摘除術
- 胃切除術

## 【下部消化管外科】

- 直腸切除・切断術
- 結腸悪性腫瘍切除術

## 【整形外科】

- 脊椎固定術
- 人工関節置換術

# 内視鏡診療

病変を早期に発見し、低侵襲治療を提供

内視鏡センターでは、上部消化管疾患、下部消化管疾患、小腸疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患および呼吸器疾患に対して診断・治療を中心に内視鏡診療を行っています。通常の上部・下部消化管内視鏡検査から専門的で高度かつ特殊な内視鏡診断・治療まで幅広く行っており、治療方針は領域ごとに関連各科の学会認定指導医・専門医を中心とした合同カンファレンスにて決定しています。



## 消化管腫瘍への低侵襲内視鏡治療や食道・胃静脈瘤治療を実施

食道がん、胃がん、大腸がんに対する内視鏡下粘膜下層剥離術（ESD）を多数行っており、他施設で処置が困難とされる症例の紹介にも積極的に治療を行っています。また肝硬変を背景とした食道・胃静脈瘤に対しては超音波内視鏡（EUS）を用いた術前の血行動態の把握により内視鏡治療（内視鏡的静脈瘤結紮療法（EVL）・内視鏡的静脈瘤硬化療法（EIS））を行っており、全国有数の実績があります。



## 超音波内視鏡を使った膵臓がん診療

先端に超音波装置を装着した胃カメラ（超音波内視鏡）を用いることで、膵臓や胆道を至近距離で詳細に観察でき、小さな病気も発見可能となります。治りにくいとされる膵臓がんでも、早期発見できれば切除により完治が望めますので、膵臓に異常が疑われた患者さんには、超音波内視鏡を受けていただくよう積極的にお勧めしています。



## AI内視鏡による高度な判定

AI内視鏡を用いて、腫瘍の鑑別支援、浸潤がんの鑑別支援、潰瘍性大腸炎活動性評価支援を行っています。これまで内視鏡検査後に病理診断を行い、治療方針を決定していたケースでも、AIのサポートを得てリアルタイムに診断を行うことで、患者さんの負担軽減や大腸がんの早期発見につながります。また、多くの潰瘍性大腸炎・クローン病患者さんを診療しており、AIにより炎症の程度を把握することで、診療に役立てるようにしています。



## 救急医療

北河内二次医療圏最後の砦として

高度救命救急センターでは、北河内二次医療圏の三次救急医療を一手に引き受けています。生命に危機を及ぼすような重篤な疾病や重度外傷などの多様な重症救急症例に対して、高度専門技術を駆使した救命救急医療を提供し、圏域にお住まいの皆さんに安全と安心をお届けできるよう努めています。



### ドクターカー

枚方寝屋川消防組合と連携して枚方市・寝屋川市・交野市を対象にドクターカーを運用しています。救急車に医師が同乗して傷病者のもとに駆けつけることで、医師の管理下に入るまでの時間が短縮され、心不全や脳梗塞などの1分1秒を争う重篤な患者さんの救命率の改善や後遺症の軽減・抑止が期待されます。



### 高度救命救急センター

初療室は十分に広く、重症患者さんが3名同時に搬送されても診療できる体制になっています。複数の救命救急センター専属医が診療を行える診療体制をとっており、直ちに手術を必要とする患者さんに対応が可能です。隣接する救急外来は、診察室3室、処置ベッド10床を備え、通院患者さんの急変対応(救急搬送)や時間外での処置に活用しています。



### 災害訓練・DMAT(災害派遣医療チーム)活動

災害拠点病院として災害時に迅速に対応できるよう、行政や大学と連携して災害訓練を行っています。また、日本DMATの資格を持つ医師が複数在籍しており、各地で大規模災害などがあった場合にDMATを派遣しています。



## 糖尿病診療

日常生活の質の維持、寿命の確保を目指して

糖尿病は血糖が高くなることで、視力や腎臓機能の低下、心臓・脳血管障害など、全身に合併症を起こす疾病です。糖尿病センターでは、個々の患者さんに適した血糖管理を行うだけでなく、眼科、腎臓内科、血管外科など多分野の専門医と緊密に連絡を取り、合併症の早期発見と治療を行っています。また肥満糖尿病に対して、腸管ホルモン薬や減量代謝改善手術など、腸管の機能を応用した新しい治療の開発にも取り組んでいます。



### 多職種によるチーム医療

糖尿病は自覚症状なく進行することが多いため、体のメンテナンスが重要です。そこで、糖尿病を有する患者さんの診療は、複数科の専門医、認定看護師、糖尿病療養指導士の資格を有する薬剤師、管理栄養士、理学療法士などで診療チームを作り、一人ひとりの患者さんに最も適した治療を十分議論して、ご提案しています。



### 実生活に即した治療法の提案

糖尿病の管理には、普段の生活での食事の摂り方や活動が、どのように血糖に影響したのかを振り返ることが重要です。ご自分の血糖の変化をリアルタイムに確認できる機器を用いて、明日からの生活での工夫を提案しています。またインスリンポンプ療法など、普段の生活に治療をあわせる、新たな技術を用いた糖尿病治療にも取り組んでいます。



### 腸管を応用した新しい治療法

胃腸から分泌される血糖上昇を抑えるホルモンが薬物として使われるようになり、腸管が糖尿病に与える影響に注目が集まっています。患者さんの糖尿病の状態に応じてこれらの薬物を組み合わせて使用し、より安全で効果的な糖尿病治療を行っています。また上部消化管外科と協同して、糖尿病治療に繋がる外科的治療も進めています。



# 認知症診療

症状の進行抑制を安全に

超高齢化を迎えた我が国において、認知症の予防と対策はますます重要になっています。2023年末には最も多い認知症である、アルツハイマー病(AD) 進行予防の新薬も販売承認されました。そのような中、2024年に当院では認知症の前段階・初期段階から対応することを目的として、認知症予防センターを設立しました。専門医による高度な診察に加えて、新たな診断機器と治療を用いて、健やかな生活を継続できるよう支援いたします。



## 認知症予防センター

当院は北河内医療圏の「認知症予防」の拠点になるべく、専門外来を開設し診療体制の構築に努めています。認知症の初期が疑われる方に対して、詳細な診察と新たな機器を用いた確かな診断を行った後に、先端的な治療を提供しています。疑わしい症状が見られる場合、近隣の脳神経クリニックや精神神経科で初期診断を受けていただき、その後、当センターにご相談いただくことになります。



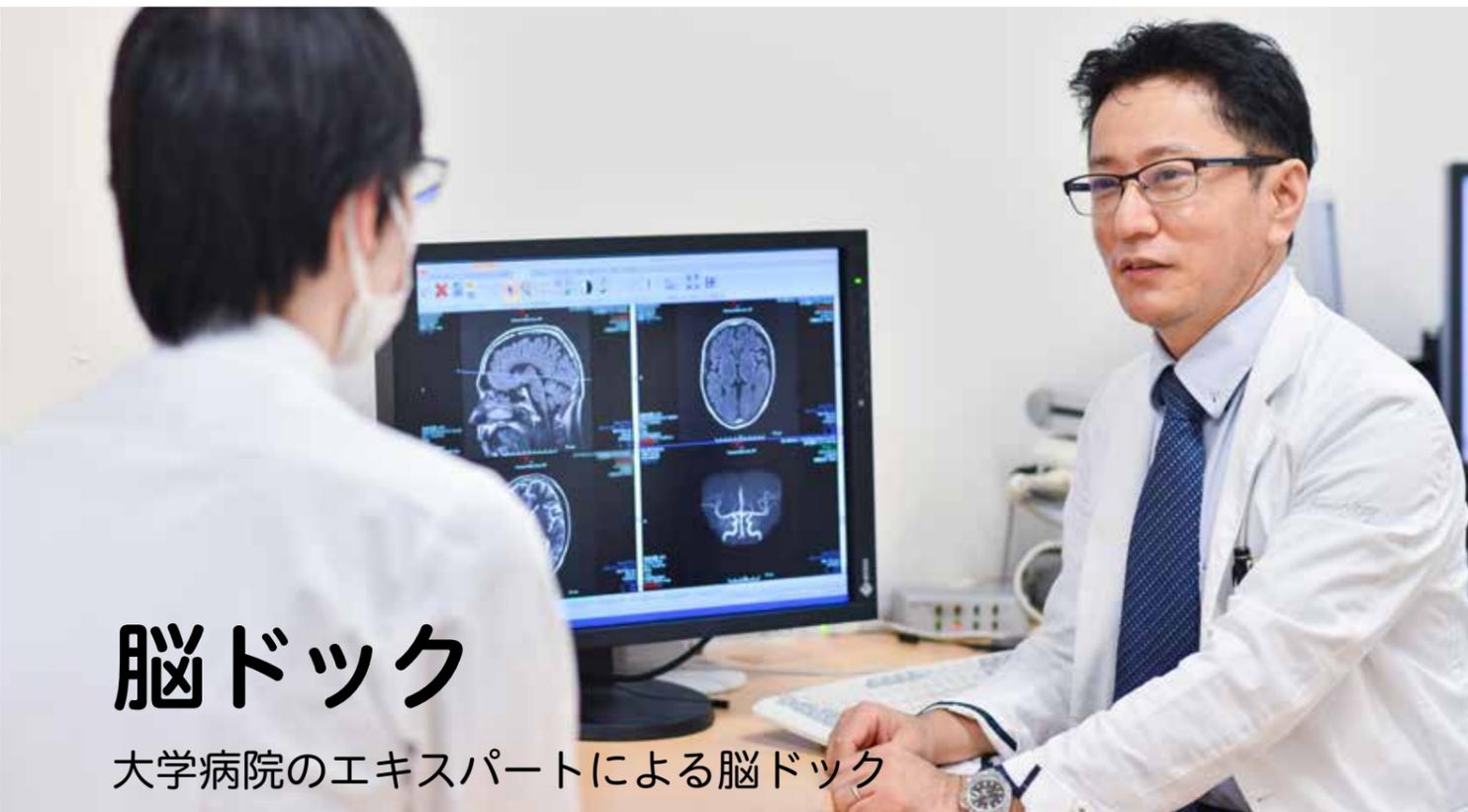
## 脳神経内科と精神神経科の2科協働診療

認知症予防センターは脳神経内科と精神神経科の2科協働で診療を行っています。それぞれの科の特長を活かし、認知症に伴う周辺症状への対応にも取り組んでいます。患者さん個々の状態に応じた細やかな診療を提供する体制を整えていますので、気になる点は何でもご相談ください。



## 日本認知症学会専門教育施設

当院は認知症診療に精通した専門医が多数在籍しており、日本認知症学会の指定する専門教育施設に認定されています。治療に伴う副作用に対して24時間対応できる体制を整えていますので、安心して治療に臨むことが可能です。また、新薬以外にも医療機器による認知症進行予防に関する国内臨床治験にも参加しています。私たちは皆さんの健康な未来をサポートするよう努めています。



# 脳ドック

大学病院のエキスパートによる脳ドック

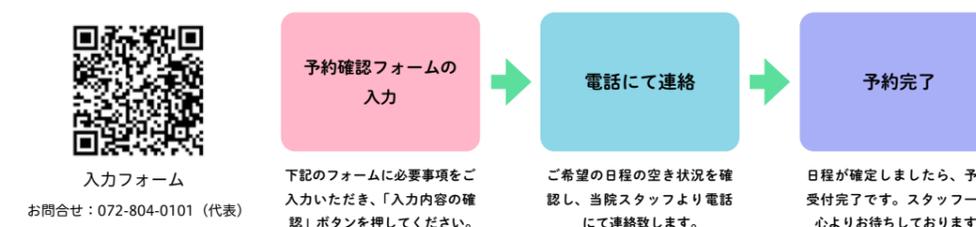
我が国において特に介護が必要とされるのは、「脳卒中」や「認知症」に悩む方々です。認知症に関しては、前段階の軽度認知機能障害(MCI)で見つけることができれば、予防も可能な時代になってきており、予防を目的とした日本独自の健診システムとして、「脳ドック」が行われています。当院は、大学病院の高度な設備を駆使し、第一線で「脳」の診療をする専門医がタッグを組んで、「脳健康」を徹底チェックすることをお約束します。

## ■当院の脳ドックの特徴

- 認知症リスクも早期発見することが可能
- 脳神経内科専門医による詳しい診察を受けることができる
- 異常が見つかった場合、保険診療に円滑に移行できる

## ■ご予約・申込

下記の入力フォームに必要事項をご入力いただき、「内容を送信」ボタンを押してください。追って担当者より連絡いたします。



## ■脳ドック実施日程

第1・3・5土曜日 8:30～12:30

## ■費用

70,000円（税込）

## ■検査項目

- ◎身体測定（身長・体重・血圧） ◎尿検査（尿蛋白、尿糖）
- ◎血液検査（赤血球、白血球、血色素量、ヘマトクリット、肝機能、腎機能、脂質、空腹時血糖、グリコヘモグロビン）
- ◎心電図検査 ◎MRI（磁気共鳴装置：3テスラ以上） ◎頸動脈エコー ◎高次脳機能検査



## 周産期・小児医療

将来を担う子どもたちを守るために

小児医療センターおよび総合周産期母子医療センター、NICU 合わせて 70 床の入院病床と、こども館（外来）があり、ハイリスク妊娠・分娩から正常分娩（無痛分娩含む）、新生児／乳幼児の重症疾患に対応しています。



### 断らない周産期医療を目指して

北河内地区唯一の総合周産期母子医療センターとして、安心いただける周産期医療を提供すべく邁進しています。正常妊娠・分娩の管理のみならず、大学病院という特性を活かして合併症を有する母体の妊娠管理やハイリスク妊娠・分娩管理に日々尽力しています。



### 高度な胎児診断ならびに胎児治療

北河内地区唯一の出生前検査認証制度基幹施設として、臨床遺伝センターと協力し、NIPT（新型出生前診断）など各種出生前診断を行っています。胎児外来では様々な胎児異常を管理しています。胎児治療（胎児胸腔シャント術、無心体双胎へのラジオ波焼灼術など）も行っています。



### 20歳未満のあらゆる年齢層が対象

新生児期から思春期まで、あらゆる年齢層のお子さんを対象に、腎臓、循環器、血液・腫瘍、新生児、アレルギー、神経、免疫・膠原病、心身症、内分泌などの専門診療科で高度な医療を提供します。小児科専門医による丁寧な診察と、最新の設備・技術を駆使した診断・治療で、お子さんの心身の健康を守ります。



### チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）

当院では、非日常的な医療環境の中で、患児や家族が抱える精神的負担軽減を支援する専門スタッフ「チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）」を配置し、治療前の心の準備のサポートや処置・検査中の精神的サポート、院内プラネタリウム（左図）など、入院中の患児向けイベントを行っています。

Perinatal Care & Pediatric Medical Care



## 介護・福祉部門

専門性の高いサービスを提供

在宅看護やリハビリ治療、介護に幅広く提供することを目的として「関医訪問看護ステーション・枚方」、「関医ケアプランセンター・枚方」、「関医デイケアセンター・枚方」を2020年1月に開設しました。附属病院はもとより、関連機関とのネットワークの強化を図りながら、地域の皆さんが安心して介護・福祉サービスを利用できるよう努力してまいります。



住み慣れたご自宅で、地域関連機関と連携をとりながら必要な治療や介護を受けられるなど、安心して生活を送っていただくよう努めてまいります。

#### サービス内容

- ご家族への指導・相談
- 床ずれの予防と処置
- 清拭・入浴・食事などの介助
- 症状の観察 ○認知症の看護
- 医療機器の管理など
- ターミナルケア ○リハビリテーション

TEL:072-845-5471



住み慣れた自宅で自立した生活ができるように保健・医療・福祉のサービスを総合的に受けるためのケアプランを作成します。

#### サービス内容

- 要介護者の在宅看護に関する相談
- 現状を踏まえた最適なケアプランの作成
- 自宅訪問、プラン実施状況の確認
- 自治体など関連機関との連絡調整

TEL:072-845-5472



リハビリテーションロボットやトレーニング機器を導入しており、運動機能や認知機能の改善を通して利用者の介護予防・自立支援を目指します。

#### サービス内容

- リハビリ特化型デイケア
- 複数のプログラムを組み合わせたトレーニング
- 利用時間:1時間(運動時間:40分)
- 入浴・食事・送迎の提供なし

TEL:072-804-2676

Nursing Care Service Department

# あたたかい看護

## 地域の方に安心を

看護職の仕事は幅広く、外来や病棟でのケアから手術の準備・介助、看護ケア外来での指導など多岐にわたります。看護部の基本方針を胸に、治療中の患者さん、ご家族、ひいては地域の方々に安心を提供できるよう日々取り組んでいます。

教育においては、正確な判断・実践力を育み、患者さんの些細な変化にも「気づき」の眼を持つ自立した看護職の育成を目指し、チーム医療においても、一人ひとりが自分の考えを伝え、互いを尊重した良好な人間関係が築けるよう、多職種連携の推進に努めています。看護師自身がやりがいを持って働き続けられるように、育児支援やワークライフバランスの充実にも取り組んでいます。

### 附属病院看護部基本方針

- [ 誠実・誠意 ] 私たちは、患者・家族との信頼関係を築き誠意を持って最善の看護を提供します
- [ やさしく・穏やか ] 私たちは、安心・安全に配慮しあたたかい看護を提供します
- [ 革新・刷新 ] 私たちは、常に新しい知識・技術を取り入れ、看護の革新に努めます
- [ 生活・活力 ] 私たちは、看護職に誇りを持ち生き活きと輝いて看護します
- [ エキスパート・専門 ] 私たちは、専門職としての自覚と責任を持ち、他職種と協働してより質の高い看護を提供します



手術が安全に進行することを第一にチーム一丸となって取り組んでいます。進化する医療に対し専門性を高めるため自己研鑽に努めています。



40名以上の助産師が在籍しており、「両親教室」や「母乳外来」を実施。妊娠期から産褥期を通してサポートできる体制を整えています。



院内感染対策チームや呼吸サポートチームなど医師・臨床工学技士・理学療法士といった多職種でチームを組み、専門的ケアを行います。



研修では、e-ラーニングに加え、対面講義に実習、臨床現場での実践を行います。



指定のストラップを着用した、特定看護師が臨床現場で活躍しています。



附属病院では総勢106名の特定看護師が在籍しており、2024年度は24名が研修を受講しています。

## 特定看護師 (特定行為研修修了看護師)

看護師の更なる役割拡大を目指し、看護師特定行為研修に注力しています。およそ1年間の講義や臨床実習を経て手順書に基づき実践します。

※特定看護師(特定行為研修修了看護師)とは

保健師助産師看護師法によって制定された特定行為研修は、年々高度化が進む医療の現場においてチーム医療のキーパーソンである看護師が、実践的な理解力、思考力および判断力ならびに高度かつ専門的な知識および技能の向上を図るために行われるものです。

研修受講後の看護師は、厚生労働省が定める21区分38行為の特定行為の中で、あらかじめ医師が手順書に定めた行為については、医師の指示を待たずに患者さんへ施すことが可能となります。これにより、急変時や慢性疾患の対応においてタイムリーかつ効果的な看護を実現することで、質の高い医療の提供を可能とすることや、医師の働き方改革に寄与することが期待されています。

# 快適な療養環境

心身ともに回復していただくために



入院生活を快適に過ごしていただくため、ニーズに応じて多様なお部屋を用意しています。すべての病室のテレビおよび冷蔵庫は無料でご利用いただけます。2021年から準個室を配備し、4床室でありながらプライベート空間を維持できる設計となっています。6階には季節の花が楽しめる開放的な屋上庭園を設置しています。



面積 35㎡の4床室にプライベート空間を兼ね備えた準個室。



洗面台、ユニットシャワー（一部個室のみ）、トイレを備えた個室。



眺めのよいデイルームは入院中の気分転換にご利用ください。



ミニキッチン・クローゼット・別室などを備えた特別療養環境室もご用意しています。

## 病室

4床室	98室
準個室	48室
2床室	1室
個室	96室
室料差額	3,000円～89,100円(税込)
面積	14.3㎡～46.8㎡



無料 Wi-Fi サービスを提供しています。  
SSID : kmuhospital-WiFi

# 関医タワーホテル

すぐそばでココロとカラダ休めるために。



## 24時間宿泊受付

関医タワーホテルは、関西医科大学附属病院の敷地内にあり、病院を受診される方やそのご家族の方が安心してご宿泊できる施設です。

### 施設概要

- ◎フロント1階、客室9-11階 ◎無料 Wi-Fi 完備
- ◎全24室  
(シングル15室、ツイン9室、うち1室バリアフリー)

### ご利用できる方

- ◎附属病院を受診される患者さんやそのご家族

### 予約方法

- ◎インターネットもしくは電話での予約が可能です

■専用予約サイト <https://kmuth.rsvsys.jp>



■電話による予約（8～22時受付）

**072-804-2191**

■当日の宿泊申込について

- ◎ ～15時：予約サイト経由またはお電話
- ◎ 15～22時：お電話（直接フロントでの手続きも可能です）
- ◎ 22時～：救急外来受付へ直接お越しください



シングルルーム



ツインルーム



ロビー

### 利用料金

#### 《宿泊》

- ◎シングルルーム(1室1名):5,500円(税込)
- ◎ツインルーム(1室2名):8,500円(税込)

#### 《デイユース》

- ◎シングルルーム(3時間):3,000円(税込)
- ◎ツインルーム(3時間):4,500円(税込)

### チェックイン/チェックアウト

- ◎チェックイン 15:00～22:00
- ※22時以降、利用を希望される場合は、救命救急センター窓口で受付しています。
- ◎チェックアウト 10:00

### 特別プラン

#### 【がんセンターご利用プラン】

がんセンターで薬物治療を受けられる方の、終了時までのご本人と付添の方は…

- 前泊の場合 チェックアウト時間 10:00 以降の延長料金無料
- デイユースの場合 基本の3時間を超えても延長料金無料

#### 【大腸ファイバーご利用プラン】

大腸ファイバー検査開始時間までの待機利用の方は…

- 前泊の場合 チェックアウト時間 10:00 以降の延長料金無料
- デイユースの場合 基本の3時間を超えても延長料金無料

ご希望の場合  
ペットボトルの  
水(500ml)  
6本を400円で  
ご提供

# 医療人を育成

## 医育機関としての役割



当院は高度医療の提供に加え、医師免許を取得した1年目・2年目の医師（研修医）の臨床研修を行う基幹型臨床研修病院として、医育機関の役割を担っており、2022年にNPO法人卒後臨床研修評価機構（略称：JCEP）による第三者評価の認定を受けました。また臨床研修修了後、専門研修を希望する方に対して、「専攻医」として3年以上研修を受けるための19領域全ての専門研修プログラムを用意するなど、専門医の育成にも努めています。未来の医療を担う医療人の育成について、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

### 当院の臨床研修理念と基本方針

以下の理念・基本方針に基づいて研修医を育成しています。

#### 研修理念

慈仁（めぐみ）を心の鏡とした「安全で安心の医療」を基本姿勢とし、医師としての人間性を涵養し、幅広く必要な診療能力を身につけた誠実であたたかい医療を提供できる医師を育成します。

#### 研修基本方針

- 【人間性の涵養】豊かな人間性と高い倫理観をもち、科学的思考に基づいて行動できる医師を育成します。
- 【基本的診療能力の習得】患者を全人的に診ることができる基本的な診療能力を有した医師を養成します。
- 【チーム医療】チーム医療の目的や役割を理解し、かつ地域医療に貢献できる医師を養成します。
- 【安全・質の高い医療】最新の医学、幅広い知識と技能を有し、安全で良質な医療を実践できる医師を養成します。



研修医だけでなく、医学部・看護学部・リハビリテーション学部生の臨床実習も行っています。

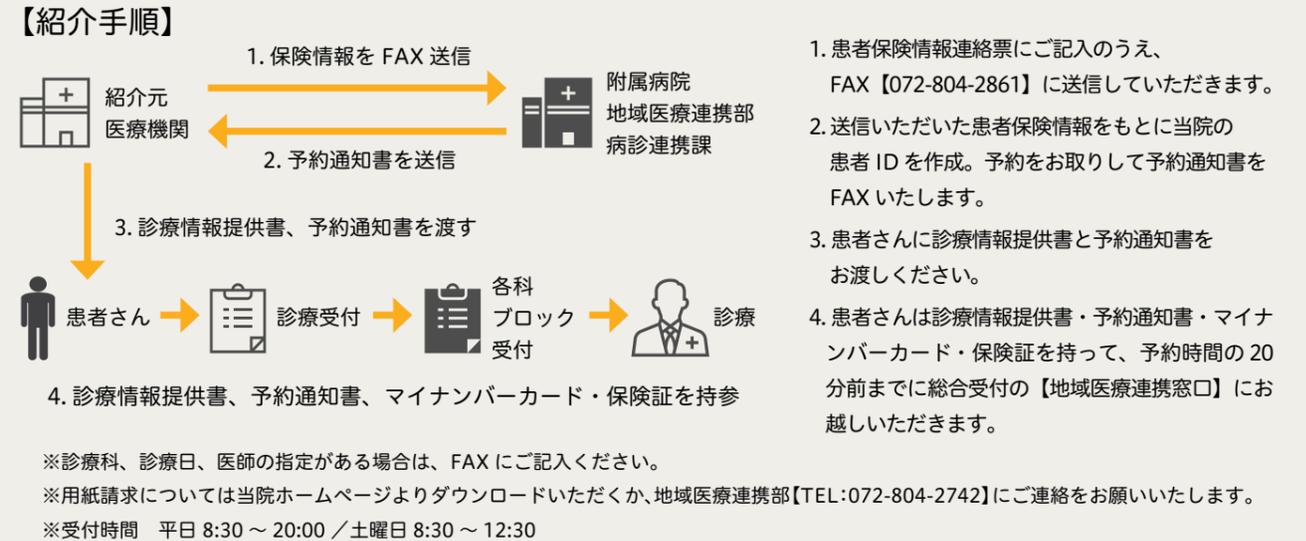


関西医科大学では専攻医のための専門研修プログラム冊子「魅力あるキャリア形成」を発行しています。

## 地域医療連携

地域医療機関との医療連携を進め、紹介患者さんに安心して受診していただくため、地域の先生方と当院の医師との連絡・連携の窓口としての役割を担っています。迅速な社会復帰や、円滑な退院・転院のために、医療福祉相談、退院・転院を調整する退院支援を行っています。

### 患者さんの紹介について



### 地域医療連携推進法人 北河内メディカルネットワーク

北河内二次医療圏（枚方市、守口市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の14の法人・個人が集い、「北河内メディカルネットワーク（KMN）」を設立、大阪府から地域医療連携推進法人の認定を受けました。医療機関等の競争から協調への転換を進め、連携推進業務によるサービスの向上はもとより、地域の多様な医療・介護ニーズに応えられるよう尽力してまいります。

主な業務

#### 研修・講習会分野

- ・医療安全共同研修
- ・感染対策共同研修
- ・能力開発研修

#### 医療連携分野

- ・感染対策向上加算支援
- ・放射線検査予約システム

#### 人材育成交流分野

- ・潜在看護師の復職支援

#### 共同購買交渉分野

- ・一般用品の共同購買交渉
- ・診療材料に関する共同購買について検討

#### その他分野

- ・業務改善案の共有

### オンライン・セカンドオピニオン外来のご案内

当院では、従来の対面型セカンドオピニオン外来を拡充させ、地域に縛られない「オンライン・セカンドオピニオン外来」を設置しました。これにより全国どこからでも当院に所属する各領域専門医に異なる角度から相談できます。

対象者	相談時間	相談料金	問合せ先
○治療方針で迷っている方 ○他に治療方法があるかどうかを確認したい方 ○自分の症状が本当に適正に診断されているのか、確かめたい方	60分まで	44,000円 (税込)	地域医療連携部 オンライン・セカンドオピニオン担当 TEL:072-804-2742

利用の流れなど詳細は当院ホームページ特設ページをご覧ください。



# 診療部科長・診療内容のご紹介

上部消化管外科

下部消化管外科

肝臓外科

胆膵外科

小児外科

乳腺外科

心臓血管外科

血管外科

脳神経外科

脳血管外科

脳血管内治療科

小児脳神経外科

呼吸器外科

整形外科

形成外科

皮膚科

腎泌尿器外科

耳鼻咽喉科

頭頸部外科

歯科・口腔外科

眼科

救急医学科

産婦人科

婦人科

婦人科内視鏡外科

産科

血液腫瘍内科

呼吸器腫瘍内科

呼吸器・感染症内科

循環器内科

腎臓内科

内分泌内科

糖尿病科

リウマチ・膠原病科

健康科学科

消化器肝臓内科

脳神経内科

精神神経科

心療内科

総合診療科

小児科

リハビリテーション科

麻酔科

区域麻酔・ペインクリニック

呼吸器外科麻酔

放射線科

画像診断科

放射線治療科

核医学科

血管造影 IVR 科

臨床腫瘍科

臨床検査医学科

病理診断科

上部消化管外科  
Upper  
Gastrointestinal  
Surgery



主任教授

山崎 誠 YAMASAKI Makoto

食道がん、胃がんを中心に関西でも有数の症例数を誇り、高度進行癌に対する拡大手術から機能温存を目指したロボット手術まで、一人一人の病状に合わせた、より安全で効果的な治療をチーム一丸となって行っています。また、高度肥満・糖尿病に対する減量・代謝改善手術も積極的に行い、新しい外科治療の形を実践しています。北河内地域の中核病院として、急性腹症などの緊急にも迅速に対応しますので、お気軽にご相談ください。



診療教授 井上 健太郎  
INOUE Kentarou

下部消化管外科  
Colorectal  
Surgery



主任教授

渡邊 純 WATANABE Jun

大腸がんに関する専門領域の歴史と知識と技術を基に、安全性、根治性と低侵襲性に加えて術後の生活の質を考慮し、可能な限り個々の患者さんのご希望に応えられる根治的治療を目標としています。総手術件数は約 500 件と国内有数の豊富な手術経験を活かし、合併症の少ない治療を提供いたします。また、約 300 件の大腸がん手術のうち、積極的に腹腔鏡、ロボット手術を取り入れ、体に優しい手術を行っています。

肝臓外科  
Hepatobiliary  
Surgery



主任教授

海堀 昌樹 KAIBORI Masaki

手術後の合併症を起こさない、安全かつ丁寧な手術を行うことをポリシーとし、年間 180 例以上の原発性肝細胞がん、転移性肝がん、肝内・肝門部胆管がん、胆嚢がん、巨大血管腫などの肝切除術を行うなど、徹底したがん根治手術を追究しています。また、手術前後の肝臓・胆道領域の抗がん化学療法も数多く行っています。手術後の QOL (生活の質) を常に念頭に置いて、患者さんにとって一番よい治療方針をご提案し、患者さん・医師が互いに強い信頼関係で結ばれた心の通った質の高い医療を実践しています。

胆膵外科  
Biliary  
Pancreatic  
Surgery



主任教授

里井 壯平 SATO Sohei

胆膵領域の手術は難易度が高いことから、消化器外科専門医においても完遂困難な手術が多く、より優れた技能を必要とします。当科では、良性または良悪境界性疾患に対しては低侵襲で痛みの少ない(単孔式)腹腔鏡手術を積極的に行い、進行がんの多い胆膵がんに対しては化学療法などの集学的治療を導入し、積極的に高難度手術に取り組み、良好な成績を収めています。

小児外科  
Pediatric  
Surgery



主任教授  
土井 崇 DOI Takashi

小児の病気のうち、外科的な手術で治療する疾患が対象です。日常によくある疾患から、高度な手術手技が必要となる疾患まで対応しています。対象年齢は新生児から15歳まで幅広く、小児科や産科など、他科とも緊密な連携を取りながら治療にあたります。お子さんに優しく、傷が目立ちにくい、低侵襲の内視鏡手術を積極的に実施しています。症例によっては、日帰りでも手術を行うことができ、ご家族からも好評を得ています。

主任教授  
高田 正泰 TAKADA Masahiro

乳がん診療を主に行っています。手術療法は、乳房再建など整容性を維持した治療、ラジオ波焼灼術などの低侵襲治療にも取り組んでいます。薬物療法は、がんセンターと連携し全ての治療法に対応可能です。臨床試験や治験にも積極的に取り組み、先進的な治療を提供します。遺伝診療の基幹施設として、遺伝性乳がんの診療・サーベイランスも対応可能です。多遺伝子アッセイやがんゲノム検査など、治療の個別化にも力を入れています。

主任教授  
小山 忠明 KOYAMA Tadaaki

狭心症や心筋梗塞、弁膜症、大動脈瘤など心臓と血管に関わる疾患の手術、治療を行います。複雑化した冠動脈病変のバイパス手術や、心臓弁膜症の弁形成術、急性大動脈解離の緊急手術など、救急から慢性疾患まで診療しています。冠動脈バイパス手術では、手術が困難な血管であっても、冠動脈形成術を駆使して対応しています。また、小切開の弁形成術や大動脈瘤のステントグラフト治療など、低侵襲治療にも取り組んでいます。

血管外科  
Vascular Surgery  
診療教授  
森景 則保 MORIKAGE Noriyasu

腹部大動脈瘤、下肢閉塞性動脈硬化症、内臓動脈瘤に対する血管内治療と外科手術、胸部大動脈瘤、大動脈解離に対する血管内治療などあらゆる血管疾患に対応し、個々の患者さんに最適と思われる治療を提供しています。その中でも最も専門とするステントグラフト手術では、他施設では実施困難例にもエビデンスを併せ持った独自の工夫した手技、遠隔期にも安心できる精度の高い低侵襲治療を提供し、本邦の動脈瘤治療を先導しています。

脳神経外科  
Neurosurgery



主任教授 桒中 正博 NONAKA Masahiro

脳神経外科では脳腫瘍をはじめ、脳血管障害、外傷、痛みやけいれんなどの脳機能障害の治療を行っています。当科では各分野の専門家を揃え、集まってチームを組み、患者さんに最高水準の治療を提供するよう心がけています。治療方法は顕微鏡、内視鏡やカテーテル、神経機能モニタリングを駆使し、できるだけ体に負担をかけないようにしつつ、新たな技術を使って患者さんの疾患を治療していきます。

小児脳神経外科 Pediatric Neurosurgery

先天性水頭症や小児脳腫瘍、脊髄の異常など、小児の脳疾患の治療には特別な知識や経験が必要です。先天性水頭症では神経内視鏡治療を利用し、脊椎手術の際には後遺症が残らないよう神経生理モニタを使用するなど、先進的な治療を積極的に取り入れています。単に治療するだけでなく、治療後の患者さんの成長や発達も見届けるように努めています。

脳血管外科  
Cerebrovascular Surgery  
病院教授

吉村 晋一 YOSHIMURA Kunikazu

脳血管障害の外科的治療には、顕微鏡や外視鏡を用いた開頭術とカテーテルを用いた脳血管内治療があります。近年、非侵襲的な血管内治療が多く行われるようになりましたが、いまだに開頭術の方が適している疾患も多くあります。私たちの施設では、本来開頭術が適している脳血管疾患については、神経生理モニタリングや血管撮影装置を併設した手術室などを利用し、より安全な開頭術を行うように心がけています。

脳血管内治療科  
Neuroendovascular Treatment  
理事長特命教授

天神 博志 TENJIN Hiroshi

脳神経外科血管障害治療は以前と様変わりし、多くは低侵襲の血管内治療が可能となりました。血管内治療に早くから取り組んだ結果、その有用性と限界について経験してきました。血管内治療、開頭術が持つ良い点を活かそうと思います。血管内治療、開頭術共にIT技術により急激に発達しており、臨床で活用したいと思います。脳卒中は寝たきりになることが多い疾病で社会問題です。予防が重要と考えスクリーニングにも取り組んでいます。

主任教授  
村川 知弘 MURAKAWA Tomohiro

肺がんを中心に縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、自然気胸および重症胸部外傷など幅広い呼吸器疾患を診療しています。年間250例を超える原発性肺がん手術を行い、その大部分を完全胸腔鏡下手術で実施しています。また、進行肺がんの再発に対応した術後リハビリや、ターミナルケアが可能な近隣の医療機関と密に連携するなど、地域の呼吸器外科診療に、より幅広く対応できる体制を整えています。

整形外科  
Orthopedic  
Surgery



主任教授  
齋藤 貴徳  
SAITO Takanori



理事長特任教授  
堀井 恵美子  
HORII Emiko



学長特任教授  
幸原 伸夫  
KOHARA Nobuo



病院教授  
谷口 慎一郎  
TANIGUCHI Shinichiro

脊椎疾患の治療に関しては、脊椎固定術の小侵襲化に取り組んでおり、同分野でのオピニオンリーダーとしての役割を担っている施設の一つです。手術支援技術である脊髄術中モニタリングを導入し、安全・安心な脊椎手術を実践しています。また、股関節疾患の治療においては、骨セメントを用いた人工股関節の導入で国内屈指の症例数を有しており、股関節鏡下手術の導入など、患者さんの負担軽減にも取り組んでいます。

主任教授  
覚道 奈津子 KAKUDO Natsuko

全身の体表面の外傷や生まれつきの変形、腫瘍切除後の再建手術を行います。外傷（熱傷や顔面外傷・骨折の治療）、潰瘍や床ずれ、傷あとやケロイド、皮膚や皮下のできもの、先天異常（唇裂、口蓋裂、小耳症、多指症合指症など）、事故による組織欠損や他科での腫瘍切除手術後（乳房再建、顔面や食道、咽頭、喉頭の再建など）の治療、眼瞼下垂、レーザー治療など多岐にわたる治療を行います。体表に関わるどのようなことでもお気軽にご相談ください。

主任教授  
谷崎 英昭 TANIZAKI Hideaki

全ての皮膚の病気に最適な診療を提供できる体制を整えています。特にアレルギー性皮膚疾患、皮膚悪性腫瘍、アトピー性皮膚炎、乾癬、膠原病（を原因とする皮膚の症状）、光線過敏症、サルコイドーシスなどの診療に力を注いでいます。乾癬に対しては、生物学的製剤を積極的に導入することで高い治療効果を得ており、西日本各地から患者さんが来院しています。悪性腫瘍に対しても、手術・化学療法を合わせて集学的な治療を行っています。

主任教授  
木下 秀文 KINOSHITA Hidefumi

泌尿生殖器腫瘍、尿路結石、尿路感染症、排尿障害（尿失禁）、前立腺肥大症、骨盤臓器脱（女性）、腎移植、男性不妊、男性機能障害、副腎機能障害、小児泌尿生殖器疾患に至るまで、泌尿器に関わるあらゆる病気を専門的に診療します。体にやさしい低侵襲治療・手術（きずの小さい手術）を実践し、患者さんのQOLを大切にしています。また、日本で最も早くに腹腔鏡手術を始めた泌尿器科であり、「ダビンチ」を用いたロボット支援手術を多数（1,500例以上）実施しています。

形成外科  
Plastic and  
Reconstructive  
Surgery



皮膚科  
Dermatology



腎泌尿器外科  
Urology



耳鼻咽喉科  
頭頸部外科  
Otolaryngology  
Head and Neck  
Surgery



主任教授  
岩井 大 IWAI Hiroshi

耳、鼻、喉、首など、さまざまな部位の疾患を扱い、疾患ごとに専門の外来を設け、診療を実施しています。また、内視鏡手術により、治療が困難な好酸球性副鼻腔炎（難治性副鼻腔炎）の手術を行っています。さらに、当院は国内でも数少ない中耳炎と頭頸部進行がんの診療施設です。近年はアレルギー症状に対する舌下免疫療法や、難治性となったがんに対する光免疫療法を開始するなど、新たな治療や機器を積極的に取り入れています。



病院教授 八木 正夫  
YAGI Masao

歯科・口腔外科  
Dentistry  
and  
Oral Surgery



歯科・口腔外科・口腔ケアセンター  
センター教授  
児島 由佳 KOJIMA Yuka

大きな手術や化学療法などでは免疫力が低下し、口腔内の環境が悪化しやすくなります。また、手術部位感染・術後肺炎などの感染症や口腔粘膜炎も生じやすくなります。その予防のために他科と緊密な連携を取りながら、専門的な周術期口腔機能管理を実施し、早期回復、早期退院をサポートしています。さらに、医科の先生や地域の歯科医院の先生と連携しながら、口腔外科疾患（埋伏智歯、嚢胞、口腔領域の炎症性疾患、外傷、粘膜疾患、顎関節症、顎骨壊死など）の診断・治療や手術にも力を入れて取り組んでいます。

眼科  
Ophthalmology



主任教授  
今井 尚徳 IMAI Hisanori

「視覚」は人間の知覚の80%を占めます。当科では、受診患者さんの視覚を守るため、専門外来を設け、全ての眼疾患に対応しています。特に網膜硝子体疾患、緑内障の手術件数は全国トップクラスです。また、加齢黄斑変性に対する薬物治療にも力を入れています。さらに、全身診療科との連携が重要となる各疾患（角膜疾患、眼炎症性疾患、視神経疾患など）に対しても密な診療科間連携を構築し、高度な専門的診療を提供しています。



病院教授 永井 由巳  
NAGAI Yoshimi

救急医学科  
Emergency  
and  
Critical Care  
Medicine



主任教授  
鋤方 安行 KUWAGATA Yasuyuki

大阪府下に3施設ある高度救命救急センターの1つとして、北河内圏域を中心に大阪府下で発生した最重症救急例を365日24時間体制で受け入れています。救急医学科を中心に院内各診療科の協力を得ながら診療しています。2017年度からドクターカーの本格運用を開始し、救急科専門医が出動することによって重症度・緊急度の高い例に対して、現場から救命治療を開始する体制が整いました。まさに圏域の救急医療の最後の砦として機能しています。



婦人科  
Gynecology  
主任教授  
岡田 英孝 OKADA Hidetaka

子宮筋腫、子宮がんや卵巣嚢腫、卵巣がん、性感染症などの婦人科疾患全般を扱っています。婦人科腫瘍では、手術だけでなく薬物療法や放射線治療を実施し、臨床遺伝センターと連携したがんゲノム医療に取り組んでいます。また、生殖医療センターでは、若年女性がん患者さんの卵子・胚を凍結保存する妊孕性温存を推進しています。産科や総合周産期母子医療センターともに、女性の生涯の健康をサポートする体制を整えています。



婦人科内視鏡外科  
Gynecological and Obstetric Endoscopy  
診療教授  
北 正人 KITA Masato

悪性腫瘍（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど）と、婦人科良性腫瘍（子宮筋腫、子宮内膜症など）の治療を行っています。根治性を担保しながら神経温存・リンパ浮腫予防・妊孕性温存回復術式を、開腹・腹腔鏡・子宮鏡・ロボット手術を駆使して、先進的な治療法を積極的に開発・実施しています。後遺症をできるだけ抑える手術の開発に取り組み、「患者さんにやさしい」治療を目指しています。



産科  
Obstetrics  
診療教授  
森川 守 MORIKAWA Mamoru

当科は大阪府内に6つある総合周産期母子医療センターのうちの1つです。MFICU（母体集中治療）とNICU（新生児集中治療）を備えた基幹施設として、大阪府下全域ならびに他府県からも妊産婦救急を受け入れています。また、専門の産科麻酔医チームによる無痛分娩も行っています。母体合併症に対しては専門内科、外科、精神科などと、胎児・新生児疾患に対しては、NICU・小児外科・小児脳神経外科などと協力し治療にあたっています。なお正常妊娠・正常分娩にも対応しています。

血液腫瘍内科  
Hematology-  
Oncology



主任教授  
伊藤 量基 ITO Tomoki

白血病や悪性リンパ腫、造血器腫瘍、慢性骨髄性白血病など、全ての血液疾患が対象です。血液疾患は治療期間が長くなる傾向にあります。北河内エリアの患者さんやご家族の負担を軽減するために、地域の医療機関と連携し、造血幹細胞移植など高度な治療は全て当院で対応できる体制を整えています。さらにキメラ抗原受容体遺伝子導入T細胞（CAR-T）療法、分子標的療法や新規治療薬の積極的な導入など、常に先端的な医療を提供しています。

呼吸器腫瘍内科  
Thoracic  
Oncology



主任教授  
倉田 宝保 KURATA Takayasu

肺がんや胸膜中皮腫など、胸部悪性腫瘍をはじめとする呼吸器疾患全般を診療し、府内トップレベルの症例数を誇ります。診断には画像検査および気管支内視鏡検査を、治療には分子標的薬剤、今話題のがん免疫療法、そして抗がん剤を用いた化学療法を取り入れ、早期発見と適切な治療に努めています。また、有効な新薬をいち早く患者さんに提供できるように、肺がん治療薬の治験を数多く行うとともに、臨床試験グループに所属し、豊富な臨床研究に日々取り組んでいます。

呼吸器・感染症  
内科  
Respiratory Medicine,  
Infectious Diseases



診療教授  
宮下 修行 MIYASHITA Naoyuki

気管支喘息などのアレルギー肺疾患、肺炎などの感染症、喫煙による慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など、肺（呼吸器）の診療をしています。また、呼吸器の病気の代表的な症状である「咳と痰」は、厚生労働省の国民生活基礎調査で毎年、上位に位置しています。咳が長引いて、お困りの患者さんのために「咳診療」も行っています。当院では先進的な診断機器がそろっていますので、受診日に適切な治療を開始するよう心がけています。

循環器内科  
Cardiology



主任教授  
塩島 一郎 SHIOJIMA Ichiro



病院教授 竹花 一哉 TAKEHANA Kazuya  
病院教授 宮坂 陽子 MIYASAKA Yoko

虚血性心疾患や心不全など、循環器疾患の多くは生活習慣病であり、急性期の迅速な対応とともに「未病」の段階での一次予防、発症慢性期での二次予防が重要です。関係各科と連携して診療に臨む一方、患者教育にも取り組んでいます。また当科では、重症患者さんに対して、冠疾患集中治療室（CCU）での治療や人工心肺に準じたメカニカルサポートによる治療を行うなど、循環器疾患を持つ患者さんに十分な治療を提供できる体制を整えています。

腎臓内科  
Renal Medicine



診療教授

谷山 佳弘 TANIYAMA Yoshihiro

腎臓内科は、定期検診における検尿異常の2次精査（腎生検）から、腎炎・ネフローゼ、慢性腎臓病（ゆっくりと腎不全に進行する透析予備群）の治療、さらに末期腎不全の腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）まで、幅広い診療を行っています。2015年に腎センターが設立され、内科（腎、糖尿病、運動科学）、外科（腎泌尿器）、さらにコメディカル（看護師、栄養士、薬剤師、運動療法士など）が、それぞれの専門性を生かしつつ相互に協力し、より良い診療を提供しています。

内分泌内科  
Endocrine  
Medicine



診療教授

豊田 長興 TOYODA Nagaoki

甲状腺疾患は最も高頻度で遭遇する内分泌疾患です。動悸、多汗、体重減少などの症状から甲状腺中毒症が診断されます。一方、甲状腺機能低下症は、自覚症状に乏しく見逃されやすい疾患です。初診の患者さんには、甲状腺機能検査をお勧めします。当院では、パセドウ病に対しアイソトープ治療も可能です。CTなどで偶然診断された副腎腫瘍や高血圧症の患者さんに原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫などの内分泌疾患を合併していないか専門的に検査しています。お気軽にご紹介、受診ください。

糖尿病科  
Diabetes



診療教授

入江 潤一郎 IRIE Junichiro

糖尿病では、血糖値が高くなることにより、眼や腎臓などの機能低下、狭心症や脳梗塞の原因になる動脈硬化が進行します。自覚症状が少なく様々な臓器に障害が生じるため、糖尿病の診療では早期からの全身管理が重要です。そこで糖尿病科が中心となり糖尿病センターを設立し、多くの診療科と職種による診療チームを構成し、それぞれの患者さんに、糖尿病の原因と治療目標を十分踏まえた最適な医療を提供しています。

リウマチ・膠原病科  
Rheumatology  
and  
Clinical  
Immunology



病院教授

尾崎 吉郎 OZAKI Yoshio

関節リウマチと膠原病を診療します。特に関節リウマチは、難度の高い生物学的製剤による薬剤療法を積極的に実施し、高い効果をあげています。当院のリウマチ性疾患を専門とする整形外科医や膠原病内科医はもちろん、地域の医療機関とも緊密なネットワークを構築しています。また、勉強会の開催などの地域全体の診療レベル向上に取り組み、初診から軽快後のアフターフォローや再発時の再診対応まで、切れ目のない診療を提供します。

健康科学科  
Health Sciences



理事長特命教授

木村 穂 KIMURA Yutaka

心臓、肥満、糖尿病、抗加齢医学などの専門医をはじめ、運動指導士、管理栄養士、臨床心理士などの各種専門スタッフと協力しながら、心臓病や高血圧、糖尿病、高度肥満症などの生活習慣病予防および治療を行います。食事や運動療法は当院の医師だけではなく、かかりつけ医とも協力してお薬の治療との併用も可能です。サルコペニア外来での食事、運動による専門的な治療や禁煙治療も行っています。

消化器肝臓内科  
Gastrointestinal  
and  
Hepatic Medicine



主任教授

長沼 誠 NAGANUMA Makoto

食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆道、膵臓などあらゆる消化器領域の疾患を対象とし、早期消化管がんや食道静脈瘤に対する内視鏡治療、膵炎や胆管炎に対する治療など患者さんの状態に合わせて提供しています。患者数が増加している潰瘍性大腸炎・クローン病の診療では日本有数の経験数を有し、開院土曜日も含めて専門医が新規治療を取り入れ診療にあたっています。また肝細胞癌の治療では局所療法、血管治療、抗がん剤などの治療を集約的に行っています。さらに膵臓がんやIgG4関連疾患などの診療にも力を入れています。



診療教授 下田 慎治  
SHIMODA Shinji

脳神経内科  
Neurology



主任教授

薬師寺 祐介 YAKUSHIJI Yusuke

脳血管障害、認知症、パーキンソン病、運動ニューロン病、多発性硬化症、重症筋無力症、脳・髄膜炎、頭痛、末梢神経障害など、脳神経内科全領域を網羅できる北河内エリア随一の脳神経内科です。脳血管障害（特に脳梗塞）のカテーテル治療に力を入れており、国内・国際共同研究による臨床試験にも積極的に参加しています。神経難病については、大学病院でしかできない診断・加療を通じて患者さん・ご家族をサポートしています。



神経難病医学講座 教授  
高橋 牧郎 TAKAHASHI Makio

精神神経科  
Neuropsychiatry



診療教授

嶽北 佳輝 TAKEKITA Yoshiteru

統合失調症、認知症、躁うつ病、うつ病、せん妄、睡眠障害、てんかんなど、幅広い精神疾患に対し、外来において専門的な治療を提供しています。また、精神疾患を有されて当院に入院された場合や、入院中に精神疾患を発症した場合に、コンサルテーション・リエゾンとして各診療科のお手伝いを行わせていただきます。他の診療科との連携を積極的に行いながら、新たな治療も積極的に取り入れ、患者さんやご家族の生活を支援していきます。

心療内科  
Psychosomatic  
Medicine



主任教授  
蓮尾 英明 HASUO Hideaki

痛み、食欲不振、だるさ、息苦しさといった様々な症候のなかで、身体と心が絡み合う問題から発症する疾患を、身体面・心理社会面・行動面を重視しながら診療しています。難治的疾患のケアを重視した緩和ケアセンター、痛みセンターとも強固に連携しています。患者さんをサポートし、患者さん自らが病状を自己コントロールできるよう、改善につなげるのが心療内科の役割です。

総合診療科  
General Clinical  
Department



講師  
西山 順滋 NISHIYAMA Junji

当院には約 50 の診療科があります。総合診療科はどの診療科の受診がふさわしいか判断できない患者さんの診療を担当します。当科で対応可能な疾患は当科での終結を目指し、より専門的な診療を要する場合は、適切な診療科につなぐ役割を担います。診断・治療までの時間を短縮し、早期に問題が解決できることを心がけています。入院診療は担当しておらず、慢性疾患の長期継続診療は院内の他科または地域医療機関と連携します。

小児科  
Pediatrics



主任教授  
金子 一成 KANEKO Kazunari

超低出生体重児から 20 歳までの、あらゆる疾患の小児を受け入れており、重症疾患のみならず、軽症疾患にも対応しています。専門的・高度先進医療を提供する一方、「成長にあわせたケア」を合い言葉に、院内学級を併設し、チャイルドライフスペシャリストを常駐させています。さらに外来では、育児や予防接種相談などの子育て支援にも取り組み、地域の小児医療の中心施設として、安心感を与えることのできる医療の提供と子どもの代弁者としての活動を行っています。



看護学部教授（小児科兼任）  
大橋 敦 OHASHI Atsushi

リハビリテーション科  
Rehabilitation



主任教授  
長谷 公隆 HASE Kimitaka

病气や手術などで生活するための能力が低下した患者さんに対して、歩く、食べるなどの機能を回復させるリハビリテーション治療を提供します。理学療法や作業療法、言語療法など、患者さんの状況に応じた最適なリハビリ方法を選択しています。また、動きや痛みの問題については、運動学的・神経生理学的データや検査結果に基づく治療を提供したり、動作を客観的に分析・観察して治療を必要とする異常を早期に発見したりと、多彩なアプローチによって取り組んでいます。

麻酔科  
Anesthesiology



主任教授  
上林 卓彦 KAMIBAYASHI Takahiko

麻酔科は手術麻酔管理と総合集中治療、ペインクリニックを柱として運営しています。麻酔管理については、末梢神経に局所麻酔薬を作用させて痛みを防ぐ区域麻酔や、心疾患に対する高度な手術を可能にする心臓血管麻酔、難度の高い呼吸器外科手術にも対応できる呼吸器外科麻酔、子どもの麻酔管理に特化した小児麻酔、無痛分娩や帝王切開の麻酔などを担当する産科麻酔など、さまざまな分野のスペシャリストが在籍しています。



病院教授 梅垣 岳志  
UMEGAKI Takeshi

区域麻酔・ペインクリニック  
Regional Anesthesia and Pain medicine  
診療教授

中本 達夫 NAKAMOTO Tatsuo

超音波による正確な神経ブロックを用いることで、痛みの少ない術後管理を目指しています。外来診療では痛みセンターにおいて、ペインクリニックでの神経ブロックのみならず、薬物療法・心身医学療法・運動療法を組み合わせた多職種による集学的アプローチにより、難治性疼痛に対する診療を行っています。



呼吸器外科麻酔  
Respiratory Surgery Anesthesia  
診療教授

萩平 哲 HAGIHIRA Satoshi

低肺機能の患者さんであっても、心臓など他の重要臓器に合併症を有する患者さんであっても、できるだけ術後合併症を起こさないような麻酔管理を心掛けています。呼吸器手術に関しては小児症例もサポートしています。





### 主任教授 谷川 昇 TANIGAWA Noboru

附属病院の放射線科は画像診断科、放射線治療科、核医学科、血管造影 I V R 科の 4 つの診療科に分かれています。そのそれぞれに複数の専門医を配置しています。各診療科の独自性を発揮しつつ、先端的な装置を用いて最適な医療を提供すると同時に、4 つの診療科間で密接に連携を取りながら、各診療科からの多様な要望に対応しています。

#### 核医学科 Nuclear Medicine

特定の組織に集まる放射性医薬品を投与し、その集まり具合を画像化することで病気を診断、治療します。PET やガンマカメラを用いて、正常な組織と、病気の組織とを見分けます。血液検査やレントゲンでは発見できない病気を見つけたり、手術の際にどこまで切り取る必要があるかを判断したりと、正確な診断・治療を実現します。



#### 画像診断科

#### Diagnostic Imaging

#### 病院准教授

#### 黒川 弘晶 KUROKAWA Hiroaki

体の内部や手足、骨、乳房などの X 線撮影（レントゲン）、胃・小腸・大腸などの造影をはじめ、コンピュータを活用して体の輪切り画像を撮影する CT や MRI を中心に、病気の原因や状態を探るための画像を撮影する部門です。がんなどの早期発見はもちろん、病気がどの程度進行しているのか、どんな治療法が適しているのかなどの判断を助ける材料を提供します。他診療科の会議にも参加し、撮影結果をもとに治療方針の決定をサポートしています。



#### 放射線治療科

#### Radiotherapy

#### 診療教授

#### 中村 聡明 NAKAMURA Satoaki

頭頸部や臓器、肺、前立腺のがん、脳腫瘍に対して IMRT（従来よりも高精度に、悪性腫瘍に集中的に放射線を照射する方法）による治療を行い、患者さんの負担の少ない「切らない治療」を提供します。また、これまでは困難といわれてきた膵臓がんの放射線治療にも積極的に取り組み、全国でも有数の診療実績を蓄積しています。くわえて、外科系診療科やがんセンターとも緊密に連携し、領域横断的にさまざまな角度からがん治療にアプローチしています。



#### 血管造影 I V R 科

#### Interventional Angiography (IVR)

#### 病院教授

#### 狩谷 秀治 KARIYA Shuji

IVR とは、最新の画像診断装置を用いて体内を画像化したうえで、カテーテルなどの器具を挿入し切らずに行う画像ガイド下低侵襲治療です。子宮筋腫などの良性の病気から癌治療まで広い分野で症例数が多く、在籍医師の経験が豊富です。従来の開腹手術と比較して患者さんへの負担が軽く、術後の回復も早いのが特長です。画像を見ながら手技をするので、確実な患部の治療が可能です。

#### 臨床腫瘍科 Clinical Oncology



#### がんセンター

#### センター教授

#### 金井 雅史 KANAI Masashi

臨床腫瘍科は 2024 年に新しく立ち上がった診療科です。がん薬物療法とがんゲノム医療を中心に、各診療科と連携して診療を行っています。がん薬物療法に関しては最新のエビデンスに基づき、個々の患者さんのニーズに応じた治療を提供できるよう心がけています。またがんゲノム医療に関してもがん遺伝子パネル検査の適応の判断、適切なパネルの選択と申込、結果の解釈、患者さんへの結果説明を担当しています。

#### 臨床検査医学科 Clinical Laboratory Medicine



#### 臨床検査医学センター

#### センター教授

#### 神田 晃 KANDA Akira

臨床検査医学センターでは、患者さんの体液や排泄物に含まれる成分を分析したり、心電図や脳波検査などの生理機能検査を行ったりしています。診断および治療に欠かすことができない検査データを提供し、診療業務に幅広く貢献しています。また、他の大学病院に先がけて、臨床検査に関する国際規格である ISO15189 の認定を取得しています。精度管理を徹底し、迅速に正確なデータを提供できるよう、努めています。

#### 病理診断科 Diagnostic Pathology



#### 診療教授

#### 内田 克典 UCHIDA Katsunori



学長特命教授 田中 享  
TANAKA Akira

病変から採取した細胞を様々な角度から観察し、治療方針の決定に直結する診断を提供しています。様々な治療の正確性、効果性を限りなく高める存在として、迅速で確実な病理診断を心掛けています。

## 附属病院概要 2024 年 4 月 1 日現在

### 病院概要

名称	関西医科大学附属病院
病院長	松田 公志
開設	2006 年 1 月 1 日
病棟 / 病床数	22 病棟 / 797 床
診療科	49 科
手術室数	22 室 ※2024 年 8 月増室含む
看護種別	一般看護配置 7 対 1

### 施設概要

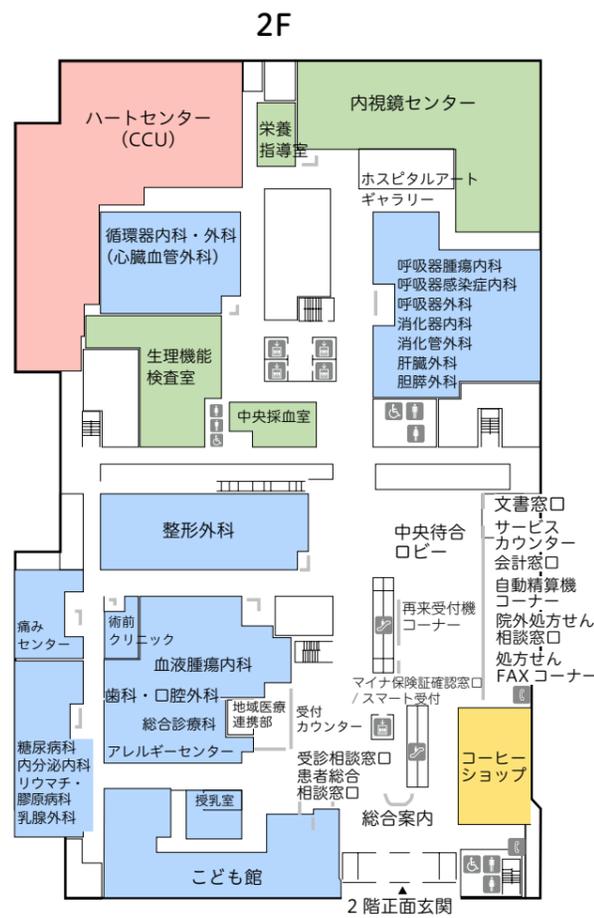
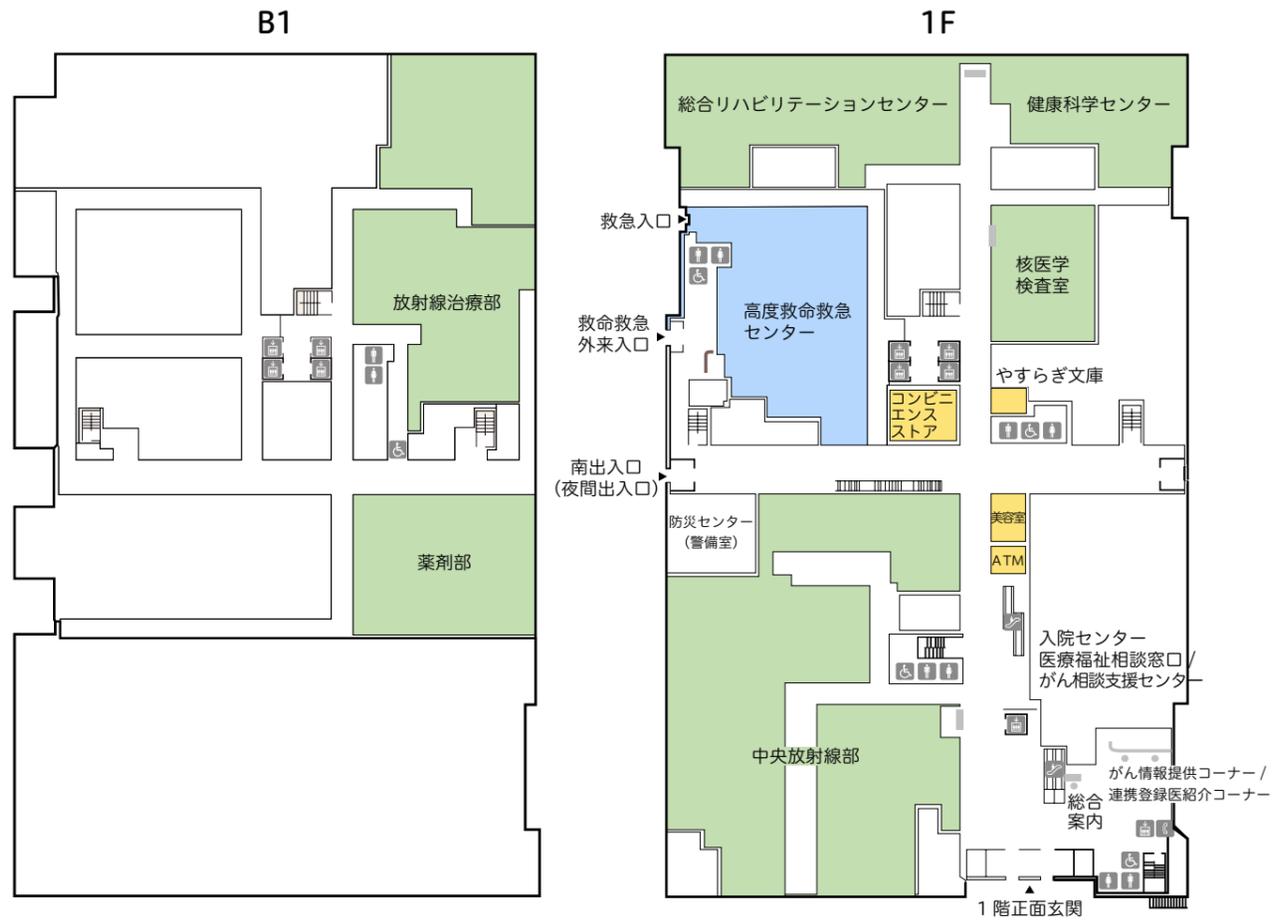
敷地面積	31,611.88㎡ (9,563 坪)
建築面積	9,849.56㎡ (2,979 坪)
延床面積	71,851.19㎡ (21,735 坪)
構造	鉄筋コンクリート造 (免震構造)
階数	地下 1 階、地上 13 階、塔屋 2 階
高さ	67.024 m
駐車台数	492 台

### 病院 Web サイト

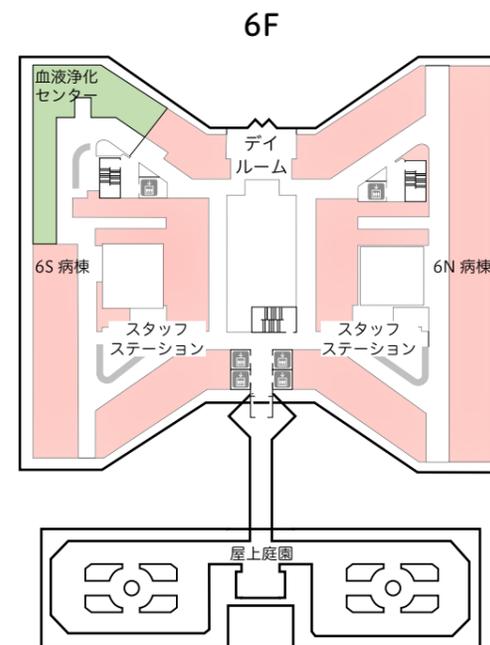
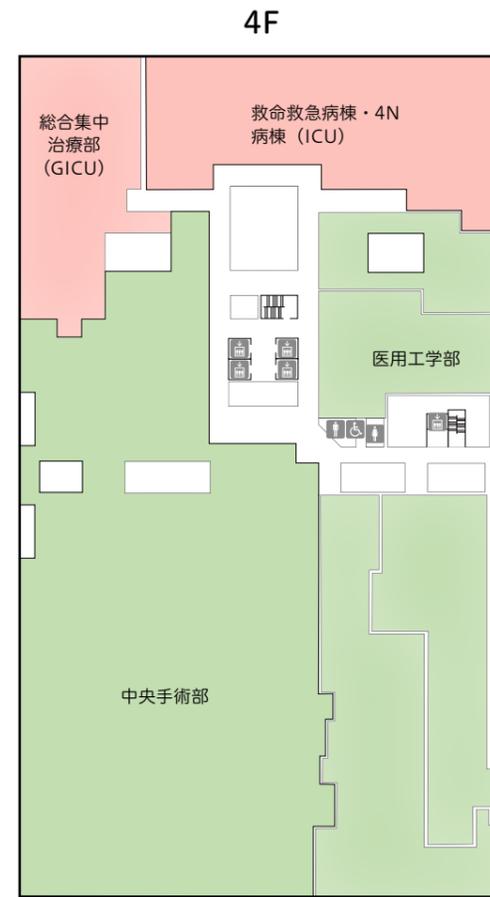
<https://hp.kmu.ac.jp/>







Floor Map



# フロアマップ

- 中央診療部門
- 診療部門 (病棟)
- 診療部門 (外来)
- 店舗など

Floor Map

